

## 2016 年度 琉球大学 前期 英語&lt;昨年比&gt;

## &lt;全体概観&gt;

## ◎試験時間：100 分

・昨年と同じ。

## ◎全体分量（昨年比）：減少・同程度・増加

・本年度の総語数（本文のみ）は 2016 語で、昨年の 1911 語から 100 語以上増加した。

## ◎全体難易（昨年比）：易化・同程度・難化

・問題ごとに難易度の差が若干見られるが、全体的には昨年並み。

## ◎設問形式：1長文読解 2長文読解 3適語（文）補充 4自由英作文

・大問数は昨年と同じ。設問形式には若干の変化が見られる。

## &lt;設問別分析&gt;

## ◎第 1 問（昨年比）：易化・同程度・難化・新形式

・本文は 1038 語で、昨年の 1052 語とほぼ同じ。テーマは『地球温暖化で消滅の危機にある島国』について。現代の環境問題を扱う文章に必ずと言っていいほどよく取り上げられる話題であり、とても読みやすい。昨年の第 1 問で見られた英問英答形式が受け継がれただけでなく、日本語で答えさせる問題が完全に消えた。やや答え方に悩む設問が見られたものの、該当箇所の特定は易しい。

## ◎第 2 問（昨年比）：易化・同程度・難化・新形式

・本文は 770 語で、昨年の 692 語より増加。テーマは『男女別教育の意義』について。いわゆるジェンダー論であり、第 1 問と同じく、現代における主要な議題の一つであるため読みやすい。英問英答の記述形式が 1 題あり、その他はすべて選択問題で、日本語で記述する問題はない。○×形式の内容一致問題において、昨年は本文の流れに沿って答えていくことができたが、今年は順序がバラバラで、解きにくさを感じた受験生は多かったと思われる。分量も昨年より増加したため、全体としてやや難化した。

## ◎第 3 問（昨年比）：易化・同程度・難化・新形式

・本文は 208 語で、昨年の 167 語より若干の増加。設問は単語補充 4 題と文補充 2 題で昨年とほぼ変わらず。補充すべき単語は 4 問中 3 問が動詞に関わるものであり、補充すべき文は 2 問とも疑問文で、相手の応答に対して適切な形をとる必要があった。いずれも基礎的な文法・語法の力があれば十分に対応できるという点で、難易度は昨年並である。

## ◎第 4 問（昨年比）：易化・同程度・難化・新形式

・昨年と同じく 150 語程度で賛否を問う形式。テーマは『サマータイム制』について。昨年のテーマ（原発を廃止して再生可能エネルギーを使うべきであるかどうか）よりも書きやすい。サマータイムという勤務形態そのものにはなじみが薄いかもしいが、現状の勤務形態における一般的な問題点を挙げるのは難しくはなく、賛成論を思いつくのにそれほど苦労はしないだろう。ただし、あくまでも一時的な勤務時間の変化であって、恒常的な変化ではないという点に注意。そういう視点から反対論にもつなげていくことができるだろう。